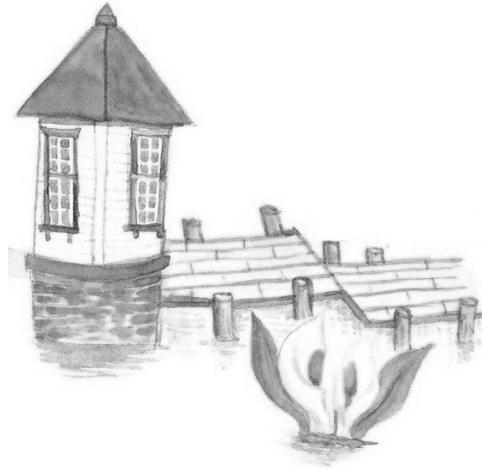


西岡 見聞録

2017（平成29）年
弥生 March
3月 No. 255



3月下旬、まだ所々に雪が残っているものの園内では地面が見え始め、築堤ではフキノトウが顔を覗かせ始めます。雪解け水が勢いよくハッ橋を流れ、木道から見える湿原ではミズバショウが芽を出し始めています。真っ白な仏炎苞がまだまだ色合いの少ない園内を鮮やかに彩ってくれます。その時、鳥のさえずりでしょうか？甲高い鳴き声が聞こえてきました。「キャラララ、キャラララ」それは繁殖期を迎えたエゾアカガエルのオスの鳴き声です。

湿原のあちこちにはゼリー状の塊が浮かんでいるように見えます。1個1個に黒い点があるように見えるのはエゾアカガエルの卵です。他にもぐるんとコイル状に巻き付いているのはエゾサンショウウオの卵。北海道固有種ですが、成体の姿はなかなか見ることが出来ず、かなりの臆病者です。どちらの卵も同じ時期に見かけますが、その場所は年々変化を感じられます。ハッ橋周辺や雪解け水が残っているパーゴラ広場にも卵はありますがそのほとんどがエゾアカガエルの卵です。以前は同じ場所にエゾサンショウウオの卵も観察出来ましたが、最近では西側木道付近で見かけるようになりました。

4月になり気温が少しずつ上がり、日差しが出ている時間が長くなつたと感じられる頃、びっくりするような生き物と出会います。スルスルと移動しているかと思うと、鉄橋の手すりに絡まりじっとしていたり・・・できれば出会いたくないとおっしゃる方も多いですね。西岡公園で出会ってしまうのは、主にアオダイショウやシマヘビです。どちらも築堤の石の隙間をねぐらとしているようで、展望テラスや管理事務所の周りでも見かけます。さすがに散策路などで突然出てきたらびっくりするかもしれません、どちらも無毒で静かにしていれば噛みついたりはしません。たまにジムグリというヘビも出てきますが、こちらも逃げ足が速く、スルスルといなくなってしまいます。

昔から人間はヘビをそんなに恐れていたのでしょうか？生き物の多くをカムイ=神と呼んでいたアイヌでは、姿をはっきりと現さない爬虫類や両生類を怪しい存在と伝承していました。ヘビを表す言葉は「オヤウ」「トツコニ」という名がありました。実際は「アレ」とか「ソレ」など曖昧に呼んでいたそうです。しかし、恐れていたにも関わらずアオダイショウには「タンネカムイ（長い神）」、シマヘビには「ウオカムイ（縞のある神）」、ジムグリには「フレカムイ（赤い神）」他にもカムイの名が付いたヘビがいます。恐れつつも様々な種類を認識していたのですから、興味がなかったわけではないようです。



[ニホンカナヘビ：日本愛蛇]
全長 16~27cm

ミズバショウが見頃を迎える頃アズマイチゲやエンレイソウ、エゾエンゴサクなどの花たちも咲き始めている事でしょう。木道を散策していると、目の前をさっと横切る奴がいます。カサカサとした肌質に素早く逃げるその姿は北海道では「カナチョロ」と呼ばれているニホンカナヘビです。ヘビと名が付いていますが、トカゲの仲間。日を浴びる習性があり、うっかり人間の前に出てきてカナヘビもびっくり！その場で動かなくなる姿も見られます。無理に捕まえようとすると、いわゆる「トカゲのしっぽきり」のような反応をしてしっぽを切って逃げるので、そっと見守ってあげて下さいね。暖かい日差しを求めているのは人間と同じようです。

生き物も植物も目覚める春、大きく深呼吸すると私たち人間も生まれ変わるかのように細胞の1つ1つが目覚めることでしょう。

冬の西岡公園にスノーキャンドルの明かりを灯そう

西岡公園スノーキャンドル実行委員長 中村 幸志

真っ白な雪の上にちよんちよんとキツネやエゾリスの足跡を探し、冬にじっと耐える木々の向こうに一番星を見つける…そんな白く静かな夕暮れの西岡公園に、今年もオレンジ色の灯がともります。

そもそもこのイベントは、2003年に東区で灯った明かりから始まりました。阪神淡路大震災で被災された方々を偲びともされた灯は、東日本大震災で被災された方々を思い、冬の災害について考え、地域のコミュニケーションを深めることの大切さを考え、そしてそのために冬の公園で何か出来ることを…そんな思いで西岡公園にスノーキャンドルを灯して今年で13年目になります。

スノーキャンドルの作り方は簡単で楽しいものです。バケツの真ん中に瓶を立てバケツに雪をぎゅっと詰めたら、瓶をそっと抜きます。バケツをひっくり返して瓶の抜けた穴にローソクを立てれば出来上がり。子どもが盛り上がりそう！いえいえ大人も毎年盛り上がります！（家でもやってみたという方、多いのでは！？）

小さな子から小学生…大人までみんなで作ったスノーキャンドルに日暮れとともに一つ一つ灯がともされると歓声があがります。

おすすめは展望台の上からの眺め。展望台への階段に並んだスノーキャンドルの灯がまるで広がっていくような一面のスノーキャンドル。それを見つめるみんなの笑顔。西岡公園スノーキャンドルの自慢です。

手袋、帽子、スキーウェアのモコモコの格好でペタペタとスノーキャンドルを作るのもよし、日が暮れてから見に来て一面の灯にうっとりするのもよし。誰でもいつ来てもいつ帰ってもOKのイベントです。今年の大雪にため息をついた方、オレンジ色の灯が広がるのを眺めてため息をつきませんか？



～～西岡公園で3月に見られる野鳥たち～～

(日本野鳥の会 札幌支部 HPより 2015.3.1に確認した野鳥)

- | | | |
|----------|---------|--------|
| ・ハイタカ | ・ヒガラ | ・ミソサザイ |
| ・コゲラ | ・シジュウカラ | ・ツグミ |
| ・アカゲラ | ・ヒヨドリ | ・ベニヒワ |
| ・ハシブトガラス | ・エナガ | ・ウソ |
| ・ハシブトガラ | ・ゴジュウカラ | |
| ・ヤマガラ | ・キバシリ | |

※破線の木道が冬期通行止めになっています。
東側の木道は積雪の為滑りやすく、また、木道下の水路が深く大変危険な状態になっています。
※老朽化していた木道の一部撤去工事が始まりました。皆さまのご理解とご協力をお願いします。

管理事務所南側に冬期間臨時駐車スペースを設けています。

冬期間駐車スペースが限られます。なるべく公共交通機関でお越しください。

雪の積もった木道をご通行の際は足元に十分お気をつけください。

散策路や水源池の雪上には、様々な動物たちの足跡や痕跡が残っています。展示室では「冬のかくれんぼ」と題して、動物たちの足跡の展示を行っています。散策前にはぜひ、管理事務所にお立ち寄りください。

西岡公園管理事務所
開館時間 9:00 ~ 17:00
休館日 火曜日 (4月~11月)
火・水曜日 (12月~3月)
お問い合わせ 011-582-0050

挽きたてのコーヒー (1杯 100円)
澄川の「菓子工房 fika.」のビスケット、木工クラフト品などを販売しています。
西岡公園を紹介する展示を眺めながら、ほっと一息つくのはいかがでしょうか？